

令和6年度 広陵町 児童虐待防止研修会 結果報告

主催：広陵町 子育て総合支援課

1 日程

令和6年11月14日(木) 開場：13時00分 開演：13時30分

2 会場

広陵中央公民館「かくや姫ホール」

3 講演内容

【講師】松岡 典子 氏 助産師
NPO法人 MCサポートセンターみくみえ 理事長

【演題】「防ごう子ども虐待、守ろう子どもの命」
～こどもまんなか社会実現のために～

【講演会概要】

子ども虐待は、子どもの心身の成長及び人格の形成に重要な影響を与えるものであり、子どもに対する重大な人権侵害である。虐待に至りやすい要因は、親自身の要因、子どもの要因、家族をとりまく要因など様々であり、家族という親密な関係性の中で起こっているため表面化しにくい。

国は令和元年度に児童虐待の取り組みの抜本的な見直しを行い、暴力が子どもに及ぼす悪影響についての理解を進めるため、体罰によらない子育ての推進を推進している。

子どもを守る責任は第1義的に保護者にあるが、児童福祉法では国、地方公共団体や国民にも育成責任があるとされている。児童虐待の通告の際には虐待の確証は不要であり、虐待を受けたと思われる児童を発見した際に通告することが求められている。

地域の関係機関や住民は虐待予防ネットワークの一員であり、子どもを守るために、日頃から気づき、声かけ、見過ごさない視点と連携が重要である。

虐待加害者自身も、悲しさや寂しさ、不安、孤独等の感情を抱えている事も多く、加害者自身の問題や課題に対しても目を向け、適切な支援をしていく事も必要である。

虐待予防の取り組みの目的は、子どもが心身の健康を取り戻し健康な大人になり、児童虐待の連鎖を防ぐことであり、そのために地域全体で虐待予防の取り組みを行っていく事が重要である。



4 参加者数

80名

5 アンケートより

【感想】 提出者数56名

0歳0ヶ月で亡くなっている子どもが一番多いという事実はとても辛く悲しい事でした。子どもが発している声や気持ちをしっかりと受け止めなければならないと思った。虐待を受けていた子どもが親になった時、その人に対して国や地域や身近な人たちが援助していけばその人たちも安心して子育てができるようになるのではないかなと思った。

虐待という言葉を毎日のように耳にします。私たちが今回の様な素晴らしいお話を聞く機会も増えています。でも、家庭内の事なので私たちが虐待を受けている子どもに手を差し出してあげる機会がありません。地域でもそのような事ができれば良いと思うのですが、現実には私たちができる事はあるのでしょうか？お話は心に響くのですがこの講演会が終わって一歩外に出れば…。行動を起こせば良いのですが…。

被虐待経験者が自らも虐待をしてしまう割合が3割と聞いた時に、正直もっと多いと思っていたのでほっとしてしまう自分がいたが、そうではなくゼロにならなくてはいいんだと思った。子どもの信号に気付くよう、また保護者の様子の変化にいち早く気付いて声を掛けたり、未然に虐待を防ぐ努力をしていきたいと思った。親の良い所、頑張っている所を見つけ小まめに声を掛け、担任の先生だけでなく管理職も積極的に関わっていくようにしたい。少しでも心配な事案があれば町に相談していこうと思った。

とても分かりやすい内容でした。「虐待をしている人も地域の人たちの声かけによって変わる」という大切な事を知ることができました。お母さんを認めて褒めてあげられるような声かけを心がけたいと思います。家に帰ったら我が子をたくさん抱きしめてあげようと思います。

フランスの子育ては「産まれたての赤ちゃんにも尊厳を持って人として向き合い、産んだ人は子育てを選択でき、子どもは社会全体で育てるものであり、親にしていけるのは社会である」と、自分の意志をしっかり持っている所が凄いと思った。

※一部抜粋し掲載しています

【来年度の研修会について】

- ・子育て支援・保護者支援に関する具体的な内容や方法について知りたい
- ・児童虐待の具体的な例や実体験について聞きたいです
- ・児童虐待の実例とその対応方法について聞いてみたい
- ・「不登校、引きこもり、発達障害、等」子どもをテーマにした話を聞きたい